

令和2年7月14日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長 小俣 政男

令和元年度の決算と今後の取り組み

第二期中期計画の最終年度である令和元年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

A) 決算の状況

①令和元年度決算

令和元年度は、第二期中期計画期間の最終年度であります。前年度と比較して、経常利益は3億1,800万円減の14億2,600万円、純利益は4億4,100万円減の12億8,900万円となりました。

②第二期中期計画5年の純利益（H27～R1年度）

平成27年度から令和元年度までの5年間の累計の純利益は、76億4,900万円となり、第二期中期計画の目標である34億4,500万円を大きく上回り、令和2年度から始まった第三期中期計画へ安定した経営基盤を築くことができました。

B) 病院の現状と展望

① 救命救急医療体制の充実・強化

中央病院では、平成31年4月に山梨県内唯一の高度救命救急センターの指定を受け、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等、より高度で専門的な救急医療を提供できる体制を整備しました。この高度救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で3次救急患者を受け入れておりますが、本来、高度救命救急センターの対応症例でない2次救急患者や他の病院等で受け入れることができなかった重症患者についても受け入れを行っております。

また、増加する救急患者への対応や3次救急以外の患者を診察する治

療スペースを確保するため、令和2年3月に二次救急処置室の再整備を行いました。

今後とも山梨県の基幹病院として、セーフティーネットの役割を果たして参ります。

② がん医療への取り組み

中央病院では、平成29年5月から遺伝子外来をスタートさせ、がんの可能性のある患者さんの血液などから遺伝子を検査し、最も効果的な治療方法を選択することが可能となりました。

また、平成30年度の組織改正において、外注していた遺伝子検査を院内で迅速に処理するため、検査部にゲノム検査科を設置しました。

さらに、平成31年2月に、東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定されるとともに、令和元年度には、遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診断を行う基幹施設に指定されました。

今後とも、都道府県がん診療連携拠点病院として、がん医療の質の向上に努めて参ります。

③ 先進医療への取り組み

中央病院では平成28年3月に低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xi を導入しました。前立腺がんについては、令和2年3月末までに173例、子宮がんについては、172例の手術を実施しました。また、平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、縦隔をはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、対象手術を拡大してまいりました。da Vinci Xi で手術することにより、従来の手術と比較して患者さんの身体への負担が少なく、入院期間も短縮されております。

今後も独立行政法人制度の特性を活かし、高度で専門的な医療を提供して参ります。

④ 県立北病院における精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実

北病院では、平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行っています。

また、県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童思春期病棟を持つ病院として、平成29年4月より看護師配置を10：1とし、専従のコメディカルを配置するなど、病棟の機能強化を行いました。児童思春期の患者数は年々増加しておりますが、こころの発達総合支援センターと連携を図り、摂食障害等こころの問題を抱えた子供の診療を専門的に行って参ります。

また、平成31年4月に訪問看護ステーションを開設し、退院後、地域で生活する重症通院患者さんに対して継続的に支援を行うなど、今後も、地域の精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実を図っていきます。

⑤ 世界標準を目指す若手医師集団の育成

令和2年度も20人の初期臨床研修医を採用し、初期臨床研修医39人、専攻医37人 計76人の若手医師が在籍しています。これは、当院の全医師219人の35%となります。

また、新専門医制度において、中央病院では内科、外科、小児科、総合診療科、救急科、整形外科、北病院では精神科の専門研修基幹施設として、またその他の診療科では連携施設として、専攻医の専門医資格取得を人的及び物的に支援するため、専門研修プログラムを作成し、現在31名の専攻医を受け入れております。

これら若手医師の教育は、将来にわたって山梨県の医療の質的及び量的な基盤になると考え、当機構に在籍する高度な知識と技術を有する医師の指導のもと日々の研鑽を積んでおります。

今後も、地域のみならず、世界で活躍する多くの医師を育成できる教育環境の整備を図って参ります。

⑥ 信頼される病院を目指して

中央病院では、令和元年7月に日本医療機能評価機構より、医療機関として高い基準を満たしているとして「病院機能評価」の認定を受けました。また、令和2年1月に臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項に関する国際規格ISO15189を取得しました。今後も、良質な医療の提供や高度先進医療を推進し、県民の健康の確保と増進に寄与することを目指して、職員一丸となって日々努めて参ります。

⑦ 医療救護活動の取組

令和元年度は、台風19号による千曲川氾濫に伴い大きな被害を受けた長野県や新型コロナウイルスによる集団感染があったクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」にDMAT隊員を派遣するなど、医療救護活動を積極的に行って参りました。特に、新型コロナウイルスについては、県からの要請に基づき、クルーズ船患者4名を含む新型コロナウイルス患者7名を受け入れました。クルーズ船患者の中には、人工呼吸器を装着するなど重症患者もいましたが、令和2年4月中には全員退院したところです。

県立中央病院及び県立北病院は、県の基幹病院として、先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿でご家族の元にお帰りになれるよう取り組んで参る所存です。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。